

来週の金融市場見通し

< 10/30 ~ 11/3 >



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: https://www.skam.co.jp

10月の米購買担当者景気指数(PMI)が3か月ぶりの高水準だったほか、7-9月期の米実質国内総生産(GDP)が約2年ぶりの高い伸びとなるなど、米経済の堅調さが続いています。来週の米連邦公開市場委員会(FOMC)は利上げ見送りとなりそうですが、パウエル議長の発言でその後の利上げの有無などを占うこととなります。他方、日銀金融政策決定会合ではインフレ見通しが引き上げられ、政策修正されるのと思わくもくすぶりします。企業決算発表や米雇用統計などの経済指標も確認したいところです。

◆株価：不安定な動きが継続か

【予想レンジ】日経平均株価

(来週) 30,300~31,300円 (11月) 29,000~34,000円



日本株は、引き続き不安定な動きが見込まれます。来週は日米の金融政策の会合が予定されており、その結果を受けて株価の変動が大きくなる可能性があります。特に日銀については、予想に反して金融政策の修正を決めると、市場は嫌気しそうです。ただ、足元の日経平均株価は10月の高値と比較して1,500円程度安い水準で推移しており、来週から本格化する国内企業の決算発表で良好な業績が示されると、買い戻しの動きが優勢となりそうです。

◆為替：上値模索、日銀会合に注目

【予想レンジ】ドル円レート

(来週) 148.5~151.5円 (11月) 143.0~154.0円



ドル円は、じりじりと上値を模索する展開が見込まれます。米引締め長期化観測などを背景に、ドル円は150円台に上昇しています。しかし日銀のドル売り介入は実施されず、依然、口先介入にとどまっています。引き続き介入警戒感はドル円の上値抑制要因ではあるものの、ドル円はじりじりと上値余地を模索しそうです。ただ、来週の日銀金融政策決定会合において、政策変更の可能性もあり、結果次第では、上下にドル円の変動性が高まりそうです。

◆長期金利：神経質な動き

【予想レンジ】長期金利(新発10年債利回り)

(来週) 0.80~0.90% (11月) 0.60~0.95%



米金融引締め長期化観測などから、米長期金利が一時5%台に上昇したことや、日銀の政策修正への思わくから、国内の長期金利も一時0.885%と2013年7月以来の水準まで上昇しました。来週の日銀会合では、長期金利の事実上の上限を1%としている長短金利操作(イールドカーブコントロール、YCC)の再修正(上限引上げ等)が必要か議論される可能性があります。米金利の動向もにらみながらの神経質な動きになりそうです。

◆Jリート：日米の金融政策にらみ

【予想レンジ】東証REIT指数

(来週) 1,820~1,870ポイント (11月) 1,750~2,000ポイント



日銀の政策修正観測による国内金利の先高観から、資金の調達コスト上昇への懸念が広がり、東証REIT指数は一時1,800ポイントまで下落しました。ただ、値ごろ感からの買いも入り、その後は持ち直しました。引き続き、資産価格と比べた割安感や分配金利回りに着目した買いなどが市場を支えそうです。長期金利の動きが落ち着いてくると安心感が広がりそうです。日米の金融政策決定会合が無難に通過するかも確認したいところです。

■来週の主な内外スケジュール

	国内	海外
10/30 月	2年利付国債入札 日銀金融政策決定会合(31日まで) 月例経済報告(10月)	ユーロ圏消費者信頼感指数(10月、速報値)
10/31 火	植田日銀総裁会見 日銀「経済・物価情勢の展望(基本的見解)」 消費動向調査(10月) 完全失業率、有効求人倍率(9月) 鉱工業生産指数(9月、速報値) 商業動態統計(9月、速報値) 住宅着工件数(9月)	米連邦公開市場委員会(FOMC、11/1日まで) 米消費者信頼感指数(10月) 米シカゴ購買部協会景気指数(10月) 米FHFA住宅価格指数(8月) 米S&Pコア・ハウス・リール住宅価格指数(8月) 米雇用コスト指数(23/7-9月期) ユーロ圏消費者物価指数(10月、速報値) ユーロ圏GDP統計(23/7-9月期、速報値) 中国製造業PMI(10月)
11/1 水	—	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の記者会見 米ISM製造業景況指数(10月) 米ADP雇用報告(10月) 中国財新製造業PMI(10月)
11/2 木	国庫短期証券入札(3か月)、10年利付国債入札 マネタリーベース(10月)	米製造業受注(9月) 米新規失業保険申請件数(10/28終了週) ユーロ圏製造業PMI(10月、改定値)
11/3 金	◎東京市場休場(文化の日)	米雇用統計(10月) 米ISM非製造業景況指数(10月) ユーロ圏失業率(9月)
11/5 日	—	米国夏時間終了

(注) スケジュールの内容、日程が変更になる可能性があります。

(出所) 各種報道を基に、しんきん投信作成

■来週の注目点

鉱工業生産指数(9月、速報値)

10月31日(火)午前8時50分発表

鉱工業生産指数は8月に前月比0.7%下落し、103.1(2020年=100)となりました。業種別では、石油・石炭製品が特に増加した一方、自動車工業や化学工業などが低下しました。

9月の鉱工業生産指数は、前月比で上昇が見込まれます。生産用機械工業の生産などが増加しそうです。今後については、海外景気の下振れ懸念が続いていることから、当面は緩やかな回復傾向になりそうです。



米雇用統計(10月) 11月3日(金)午後9時30分発表

9月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比33万6,000人増となりました。平均時給は前月比0.2%増と前月並みとなりました。また、失業率は3.8%と前月並みとなりました。同雇用者数は堅調なペースで増加し、米労働市場の堅調さを示唆しました。

米労働市場の過熱感は収まりつつあるとみられるものの、今後も堅調な推移が想定されます。10月の非農業部門雇用者数は前月比16万8,000人増程度、平均時給は同0.3%増程度、失業率は3.8%程度を想定しています。



<本資料に関してご留意していただきたい事項>

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みには、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】**■投資信託に係るリスクについて**

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。